



大妻多摩中学校

二〇二二（令和4）年度

## 入学試験問題（午後）

### 【国語】

時間 50分

2月1日（火）

#### 【注意事項】

- 1 問題は17ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

人間が宇宙へ行くことは、地球に残された社会にどのような影響を与えるでしょうか。

初期の宇宙開発は、それが米ソの冷戦という対立に駆動されていたにもかかわらず、人類を一つにまとめる方向に働きました。図22(省略)はアポロ17号が撮影した地球の写真です。「ザ・ブルー・マーブル」という愛称で呼ばれているこの写真は、恐らく世界で最もよく使われた写真の一つでしょう。漆黒の宇宙空間に浮かぶ青い地球の姿は、「宇宙船地球号」という言葉に象徴されるような、<sup>①</sup>地球市民的意識を人々の間に育むことに大きく貢献したと考えられています。その背景には、(注1)アポロ計画が推進されていた一九六〇年代から七〇年代にかけてが、テレビとマスメディアが発達し、世界中の人が一つのイメージを瞬時に共有することが初めて可能になった時代だったこともあるでしょう。国の威信をかけて宇宙へ行った米ソの宇宙飛行士はその多くが軍人の出身でしたが、<sup>②</sup>多くの宇宙飛行士たちが「宇宙から見れば国境など見えなかった」などの感傷的な言葉を残しています。

二二世紀を生きる人に<sup>③</sup>ザ・ブルー・マーブルはどのように映るでしょうか。

<sup>④</sup>もちろん二二世紀の今でも、青い地球の写真は環境問題や世界の人々の連帯の象徴として使われています。その一方で、人間にとって地球はアポロの時代と比べてもずっと小さくなりました。交通の発達で海外旅行は以前よりも容易になり、何よりインターネットの登場で世界中の人と瞬時に情報をやりとりできるようになりました。

<sup>⑤</sup>最近は人工知能(機械学習)の進展により、自動翻訳の精度が簡単な実用に耐えるレベルまで向上することで、言語のバリアも以前と比べればずっと低くなりました。住んでいる場所に関係なく、誰でも安価に世界中の人とつながることができるようになったのは素晴らしいことです。インターネットによって人生を切り拓くことができた人は数え切れないくらいいることでしょう。

しかし、交通の発達とインターネットの登場によって世界中の人々の情報交換とコミュニケーションがかつてなく容易になったことは、<sup>⑥</sup>文化の画一化を推し進め、<sup>⑦</sup>マイノリティの文化を消滅の危機に追いやるという負の側面を併せ持っています。文化人類学者のレヴィーストローは、これを人類の創造性を失わせるものだと<sup>⑧</sup>警鐘を鳴らしました。

創造活動が盛んだった時代は、コミュニケーションが、離れた相手に刺激を与える程度に発達した時代であり、それがあまりにも頻繁で迅速になり、個人にとっても集団にとってもなくてはならない障害が減って、交流が容易になり、相互の多様性を相殺してしまうことがなかった時代である

⑨「地球が小さくなった」ことに関係した、文化の画一化よりもっと明白な問題は、人口の増大による食糧・資源の不足や、それを一つの原因とした地域レベルの紛争です(グローバルに画一化された文化が押しつけられようとしていることへの反発も紛争の原因の一つかもしれませんが、そのような国際情勢の分析は私の手には負えません)。

少子化によって日本の人口は減少に転じており、生活のための(注2)インフラや社会制度を今後どのように維持してゆくかが課題となつていますが、世界的には人口は増大を続けており、試算にはらつきはありませんが、二〇五〇年には百億人近くにまでなる可能性があります。

二一世紀も中盤が迫る中、ザ・ブルー・マールが呼び起こすのは、百億人もの人間が小さな地球にひしめき合いながら生きてゆかねばならないという、ある種の閉塞感です。

既に述べた通り、宇宙へ行くことは人口増大に起因する問題の物理的な解決には恐ろしくなりません。

二一世紀の中盤から後半にかけて人類が抱える最大の課題は、人口爆発とその後にはやってくる世界規模の高齢社会において、飢えや極度の貧困といった悲惨を生むことなく、食糧や資源をめぐって武力で争うこともなく、なんとか折り合いを付けて生きてゆくことだと思えます。

ですが、レヴィイストロースが警告した文化の画一化の問題に対しては、<sup>⑩</sup>もしかしたら宇宙移民は新たな希望となるかもしれません。レヴィイストロースによれば、「ひとつの文化を近隣の他の文化からはっきり区別するほどの差違が生まれるには(中略)一定

期間、比較的孤立した状態にあること、そして交換が限られること」が必要です。物理的な物の行き来が容易でないだけでなく、その膨大な距離と光速が有限であるという制約からリアルタイムの通信さえも困難になる場所へ人間が出て行ってそこへ定住社会を作る日がくれば、それはまさにレヴィ・ストロースの言う「創造に満ちた時代」の再来と言えるのではないのでしょうか。⑪その時、地球社会と宇宙社会は、「遠く離れた相手と刺激を与え合える程度には発達しているが、多様性を相殺してしまわない程度には隔離された状態」になり得るからです。

人口問題については宇宙移民は解決にならないだろうと述べましたが、人口問題や文化の画一化がもたらす「閉塞感」を和らげてくれることくらいはできるかもしれません。百億もの人間と折り合いを付けながら生きなければならぬ地球には、他人と行動を合わせるのが困難な個人の「身勝手な」振る舞いを許す余裕はどんどん無くなっていくでしょう。⑫実際に地球を出ていくこ

とはなかったとしても、「死ぬまで絶対にここを出られない」と思うことと、「いざとなれば逃げてゆく場所がある」ことは、そのような地球を生きづらいつらいつらと感じる人にとっては、ある種の希望や慰めになるかもしれません。

見方を変えると、そのような閉塞感や生きづらさが、地球を出てゆこうとする強いモチベーションを与えることも考えられます。

大西洋を渡った(注3)メイフラワー号の清教徒たちと同じように、地球と決別して新天地へ向かう宇宙移民たちは、いずれ地球のそれとは大きく異なる文化や考え方を生むことになるでしょう。

⑬このようにして宇宙で新たな文化が生まれることは、人類の文化的多様性と創造性を育む、歓迎すべき出来事なのではないでしょうか。⑭どうもそんな単純なものではなさそうです。

(磯部洋明 いそべひろあき) 『宇宙を生きる世界を把握しようともかく営み』(小学館)より

注1 アポロ計画——ソ連の宇宙開発に対抗してアメリカが打ち出した、人間を月へ送る計画。

注2 インフラ——インフラストラクチャーの略。電力、水、交通、通信など、生活の基盤となるもの。

注3 メイフラワー号の清教徒たち——一六二〇年、ヨーロッパからアメリカに船(メイフラワー号)で渡っていったキリスト教の一派。宗教的自由を求めて海を渡ったとされる。

問1 — 線部①「地球市民的意識」とはどのような意識ですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 人類は地球の外に進出できる能力があるという意識。
- イ 人類はみな同じ惑星に暮らす仲間であるという意識。
- ウ 人類は地球上の多様な生物のうちの一つであるという意識。
- エ 人類は一丸となって宇宙生命体に対抗すべきだという意識。

問2

② ・ ⑤ ・ ⑪ ・ ⑫

に入れるのに最も適切な言葉を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

- ア また
- イ たとえ
- ウ なぜなら
- エ それとも
- オ にもかかわらず

問3

— 線部③「ザ・ブルー・マーブル」と同じものをたどえた別の表現を、ここより前の本文中から七字以内で抜き出して答えなさい。

問4 — 線部④「もちろん二一世紀の今でも、青い地球の写真は環境問題や世界の人々の連帯の象徴として使われています」とありますが、次に示すのは、この部分に関して五人の生徒が会話をしている場面です。この部分で筆者が言おうとしている内容に最もふさわしくない発言を、次のア～オの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 生徒 a — 「環境問題」の象徴といえば、地球の形をデザインしたエコマークが思い浮かぶよ。これもこの部分で言いたいことに当てはまるのではないかな。

イ 生徒 b — 「e」の形をした腕が、地球をやさしく包み込むエコマークは、地球への思いやりを表現しているように感じられるね。

ウ 生徒 c — 地球と「世界の人々の連帯」といえば、二〇二二年に開かれた東京五輪の開会式で、会場の上空にドローンで地球が形作られたのは印象的だったね。

エ 生徒 d — 千八百二十四体のドローンを正確に操作した日本の科学技術の素晴らしさは感動を呼び、未来への希望を世界に示すことができたと思うよ。

オ 生徒 e — この演出に合わせて、「想像してごらん……いつか世界は一つになる」といった歌詞の、世界的に有名な歌が流れたんだって。この部分のイメージにぴったりだね。

問5 — 線部⑥「文化の画一化」とはどういうことですか。次の  に当てはまるように、自分で考えて、五字以内で答えなさい。

文化が  こと。

問6 — 線部⑦「マイノリティ」、⑧「警鐘を鳴らし」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

⑦ 「マイノリティ」

ア 独特                   イ 伝統                   ウ 少数派                   エ 正反対

⑧ 「警鐘を鳴らし」

ア 危険を予告し                   イ 相手を批判し                   ウ 意見を大声で言い                   エ 結果を残念がり

問7 — 線部⑨「『地球が小さくなった』こと」とはどういうことですか。これを具体的に言い換えた部分を、ここより前の本文の中から五十五字以内で抜き出して、そのはじめと終わりの七字を答えなさい。

問8 — 線部⑩「もしかしたら宇宙移民は新たな希望となるかもしれませんが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～オの中から二つ選び、その記号を答えなさい。

ア 宇宙で創造的な文化が生まれ、文化の多様化が進むと考えられるため。

イ 国境が存在しない宇宙では言葉や政治的なルールによる壁が減るため。

ウ 人々が宇宙に移り住めば、増え続ける地球の人口問題の解決になるため。

エ いざとなれば地球の外へ逃げられるという希望を持つことができるため。

オ 科学技術の進歩を協力して目指せば、身勝手な人間が減ると見込まれるため。

問9 — 線部⑬「それ」の指すものは何ですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 閉塞感や生きづらさ                   イ 新天地                   ウ 宇宙移民                   エ 文化や考え方

問10 — 線部⑭ 「どうもそんな単純なものではなさそうです」とありますが、「人間が宇宙へ移り住むこと」には、どのような問題

点があると考えられますか。また、その問題点をふまえて、あなたは宇宙進出に賛成か、反対かを、百字以内で述べなさい。



二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

石庭に描いた波目を無残にくずし、小さな赤い靴は猶も元気に動きまわる。自分で飛び散らせた砂が、無邪気な白桃のようなその顔にも降ってくる。それがまた嬉しいらしく、赤い靴は予想もつかない自由さで縦横に動いた。対照的によく日焼けした祖父らしい男の顔が石庭の縁でゆらめき、子供が前をよぎるたびに苦しげに歪む。伸ばした手を難なく擦り抜ける子供を目だけが追いかけて、その軽し草のような顔に細かい皺がふえる。

①

で、腰の伸びない体ぜんたいが小刻みに震えていた。いとしくて仕方ない孫

の狼藉を叱りかねている気持ちの弱さだけでなく、幼子の動きを抑えられない自身の足腰にも老人は苛立つようだった。ふらつく膝も痛そうだった。則道はこれ以上黙って見ているのがひどく残酷に思えて声をかけた。

「大丈夫ですよ。構いせんから」

則道は心から言った。今し方描き終えた波目をくずされたのになぜか気持ちは平静だった。そしてそのことに、些か驚いていた。

則道はそれから自分も石庭に入り、<sup>②</sup>きれいに仕上がっていた波目を踏みつぶしながら二人に近づいていった。

夢はそこで終わった。胸元にかいた汗がまだ乾いておらず、シャツが冷たく重かった。則道はゆっくり体を起こすと布団の上に立ちあがり、圭子の寝息をたしかめてから階下へ降りた。階下といってもそこは二階である。二間幅の、高さ六十センチほどの窓から、池の睡蓮の花が今にも開きそうな様子がみえた。水面には初夏の青空が、ちぎられた色紙のように浮かんでいた。そろそろ三階の屋根裏に寝るには暑い季節だ。しかし古いお寺の庫裡だから贅沢は言えない。則道はそう思っただけで、もう一度階段を登り、圭子の隣に横たわった。

則道はすぐに今し方の夢をぼんやり憶いだし、そしてなぜかウメさんのことを憶いだしたが、夢がどんなふうにもウメさんと関わっているのか判らなかつた。ウメさんは病院で今ごろ生死の境にあるはずだった。さっきの老人は数年前に亡くなったウメさんの旦那さんなのか……。だとすればあの子供は、……もしかすると自分なのだろうか？ 則道はまだ幼稚園にも行ってない頃、毎日のよう

にウメさんの家に行つて覚えてたの(注3) 舍利礼文や般若心経を唱えたことを憶いだした。

則道は「③」という言葉を思った。そして、ウメさんは今日、やはり予言どおり死ぬのだろうかと思つた。五月九日と  
いう一度目の予言はからくもはずれたが、蘇生したウメさんは再び同じ月の二十九日に死ぬと言ひ放つた。それが今日なのである。

ウメさんのような人が世間ではおがみやと呼ばれていることを知つたのは随分あとのことだが、予知能力といふのか、仏教では神通力ずつりきと呼ばれる不思議な能力がウメさんにはあつて、則道が子供の頃から遠く近く様々な悩みごとが持ち込まれて来たようだ。その人々が信者さんと呼ばれていることも、則道は僧侶になつてから知つた。

しかしそのことが、たとえば寺で④したり顔で取り沙汰ざたされることもなかつたし、則道が毎朝のようにそこへ出かけることも、住職夫婦である両親には早くお経を覚える⑤手だてとして、また幼子の拵むすがつてきた行動半径の限度として歓迎されていた気がする。

その家は寺より早く朝日の射す小高い丘を背にして建つており、まだ寺との間に家の少なかつた当時は、危うげな足取りで歩いていく則道の姿が境内けいだいからも見えたらしい。

憶いだすとその家の茶の間の横には祭壇があり、お寺なみの太い蠟燭ろうそくの灯りのうしろには真ん中(注4) 不動明王の座像、左には

(注4) 愛染明王座像が鎮座ちんざしていた。右側には小さな仏像がたくさん並んでいたが、則道は詳しく見入つたこともなかつた。ただ

不動明王の口許くちもとの上下に差し違えるように生えた金色の歯がウメさん自身の八重歯の金歯と似ていたため、仏像の名前も知らない子供にとつてそれは、なにかウメさんに関係のある像なのかと思ひ込んでいた記憶がある。

信者さんたちはその頃も訪れており、一度則道がまだ途切れがちなお経をあげている横で、長火鉢ながひばちの前に(注5) キセルをふかすウ

メさんに相談している女性を見かけたことがある。則道がお経をあげおえ、いつものように飴を貰もらおうとウメさんに振り向くと、ウメさんはまるで不動明王のように口許を歪め、左右の眼つきを違えてその人を睨にらむと、キセルを長火鉢の縁に打ちつけて言った。

「あんたの家の茶の間に、やつぱりこんなふうな引き出しがあるう」煙を引きながらキセルが背後の引き出しを指す。「その中にあるよ」きつぱりそう言ったウメさんの頭のうしろでキセルが光り、それがやはりお不動さまの剣のように則道にはみえた。

あとでウメさんから聞いた話では、その女性は大金を入れた財布を落としたのだという。探しあぐねた末に相談に来たというのである。則道は恐るおそるウメさんに訊いてみた。「それで、財布はその引き出しにあったの？」ウメさんは則道を睨みつけ、笑っているような怒っているような顔で言った。「そりゃあ、あるさ」。

信者さんらしい人をウメさんの家で見かけたのはその一度だけだが、則道はその後なんども不思議な話を聞いていた。ウメさんには材木屋の(注6)番頭(ばんとう)をしている旦那さんがおり、(注7)檀家(だんか)でもあった。材木屋がひまなときに旦那さんはよく寺にお茶を飲みにきて、緩んだ肉厚な頬(ほほ)の無精(ぶしょう)ひげをうごめかせながら話していくのだった。

⑥ 最初の予言は病院側も聞きつけ、なんとしてもその日にだけは死なせるわけにはいかないと思気込んだ。そして一旦は停止した心臓がマッサージされている時、ウメさんはまるで怒ったように周囲を睨みつけて蘇生したのだが、その数日後、見舞いに来た特別養護老人ホームの寮母さんに告げられたという二度目の予言も、最初のときと同様病院内にあつというまに広まっていた。一年に百八十件以上の手術をこなすという気さくで口髭(くちひげ)のある医師も、「まいったよ、ウメさんには。おがみやさんだかなんだか知らないけど」と見舞いに訪れた則道に愚痴(ぐち)った。三人いた看護婦たちがそれを聞いて皆深くうなずくのを見て、則道は「総力戦」という印象をうけたものだった。

則道は一週間ほどまえにも法事を二つ終えたあと、(注8)作務着(さむぎ)にきがえて見舞いに行ったのだが、実はその日不思議なことが起こった。

ウメさんは復活後の元気もやや衰え、吐く息にさざ波のような音が混じっていた。どうやら則道の幼名を呼び、「しっかりやるんだぞ」という内容を喋(しゃべ)っているようだった。聞く意識をこちらが緩めると声はすぐに音になり、苦しげな表情も瞬間、顔のあちこちにあるほくろのようなシミの、なにか理解を超えた規則的な動きに見えたりもした。金歯を含んだ入れ歯は上下ともはずされ、言葉はさらに聞きとりにくい。ふいにウメさんは則道の差しだした手を痛いほど握り、両目を違った大きさにして則道の眼をにらんだ。

「立派な和尚さんになるんだぞ」そう聞こえた。それは則道が子供のころウメさんの口から何度も聞いた言葉だった。則道は一瞬、

子供のころの情景を憶いだしていた気がする。

固く握ったウメさんの手の指を一本ずつはずし、「もう神通力も鈍ってるんだから、まだまだ元気なはずだよ。また来ます」そう言っつて後ろ手にドアを閉めたとき、則道ははつきりと思った。なにか、妙だ。

肩口をうしろから羽交い絞めにでもされたようだった。二つの肩胛骨がまるで大きな一枚の板にでもなってしまったように両手が動かしにくかった。玄関でスリッパを脱ぎ、(注9)雪駄を下足棚から下ろそうとした時には額が冷たくなっている気がした。眩暈がした。

寺に戻っても両肩の重苦しさは増してくるようだった。夕方、圭子と一緒に畑のサヤエンドウをもぎ取ったのだが、則道は(7)まるで曇天の空すべてを自分一人で支えている気がした。マメの繊維を取っていると吐き気がした。

圭子に促されてときどきかかる整体に出かけ、楽になったと思っただのもほんの一時間ほどだった。夕食は則道の好きなうどんだったが、普段少なくとも二玉は食べる則道がその時は一玉を食べかねた。うどんを啜るその音で頭にひびが入るようだった。

「頼られちゃったんじゃないの？」

最初にそう言っただのは圭子だった。そしてますます重くなっていく肩のことを整体の先生に電話で訴え(うった)ると、彼もまた似たようなことを言った。

「乗っかられたんじゃないですか、ウメおばあちゃんに」

彼も整体の道にはいるまえに大工をしていて屋根から落ちた時、どうしても治らない体の相談にウメさんを訪ねたのだという。

⑧

それが体の不思議に目覚めたきっかけですよと、則道は治療を受けながら聞かされたことがある。彼もウメさんの入院や予言のことを知った上で言っているのだった。そして彼は声の調子を落として続けた。

「そういう人の治療もときどきしますけど、駄目なんですよ、すぐ戻っちゃうんです」

要するに則道の肩の修復は、(9)整体の領分ではないというわけだった。

急に肩が軽くなったのはほんの三日前、それは法事でお経をよんでいるとき突然だった。それまで締めつけられるようでも出にくかった声が、喉のどの奥から鉛なまりの塊かたまりでも吐きだしたように急に楽に出た。一瞬耳がよくなったと思えるほど音量が増したと感じたが、あるいは実際耳に生理的变化があつたのかもしれない。

<sup>⑩</sup>突然の変化に、則道はすぐにウメさんの死を想おもった。乗つかつていたものがどこかに行つてしまつたのかと考えた。そして病院に電話してみたが、ウメさんは昨日から酸素マスクも外し、意識もすっかりしていると告げられた。

原因が何であれ体が楽になつたのは嬉しいことだった。しかしその晩から、今度は奇妙な夢ばかり三日つづけて見ている。どの夢にも直接ウメさんは登場せず、なにか関連があるのかもしれないというような、奇妙な後味だけが残つた。

(げんゆうそうきゆう  
玄侑宗久『中陰の花』〔文春文庫〕より)

注1 狼藉——乱暴なふるまい。

注2 庫裡——寺の住職や家族の居間。

注3 舍利礼文や般若心経——どちらもお経の名称。

注4 不動明王・愛染明王——どちらも仏の名称。

注5 キセル——タバコを吸うための道具。

注6 番頭——商家などで使用人をまとめる人。

注7 壇家——ある特定の寺に所属し、その寺を経済的に支援する家。

注8 作務着——作務衣さむえのこと。修行僧が着る作業着。

注9 雪駄——草履の一種。

問1 ①に当てはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 苛立ちと困惑      イ 老いと疲労      ウ 悲しみと喜び      エ 愛おしさと幸福

問2 線部②「きれいに仕上がっていた波目を踏みつぶしながら二人に近づいていった」とありますが、なぜ則道はそのような

行動をしたのですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア せっかくな描いた波目を子供にくずされ、その怒りで、きれいに描いた波目のことを気にする余裕がなくなっていたから。  
イ 波目をくずした子どもと、それをとめなかつた老人に一言文句を言ってやりたい気持ちを示したかったから。  
ウ 仕上がった波目は満足のいく出来ではなく、どうせ崩してもう一度やり直そうと考えていたところだったから。  
エ 自分でも波目を崩して石庭を歩くことで、子供が波目をくずしたことを気にする必要はないことを伝えたかったから。

問3 ③に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 虫の居所が悪い      イ 虫の知らせ      ウ 虫酸むしずが走る      エ 虫が好かない

問4 線部④「したり顔」、⑤「手だて」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

- ④ 「したり顔」  
ア 考えごとをしている顔      イ なにも知らない顔      ウ 得意そうな顔      エ 疑問に思っている顔  
⑤ 「手だて」  
ア きっかけ      イ 助け      ウ 習慣      エ 方法

問5 — 線部⑥「最初の予言は病院側も聞きつけ、なんとしてもその日にだけは死なせるわけにはいかないと意気込んだ」とありますが、病院側がそのように意気込んだのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア この病院でウメさんを死なせてしまい、あとで恨まれてたたられては困ると思ったから。
- イ 非科学的な予言どおりに死なれて、科学的な医学が負けたような状況は避けたかったから。
- ウ 予言も何も関係なく、とにかく人の命を救うことは医療従事者として当然のことだから。
- エ 予言の日にウメさんを死なせないことで、おがみやとしてのウメさんの評価を下げたかったから。

問6 — 線部⑦「まるで曇天の空すべてを自分一人で支えている気がした」とありますが、これは具体的には何のどのような様子 of たとえですか。本文中から七字で抜き出して答えなさい。

問7

⑧

には次のア～エの四つの文が入ります。正しい順序で並べ替え、その記号を

答えなさい。

- ア これがかもう酷い<sup>ひど</sup>の一言。
- イ しかし三ヶ月後、もう諦めかけていた体はウソのように軽快になった。
- ウ そしてウメさんに言われたのは、薬局で柿渋の液体を買い、毎日コップ一杯飲むということ。
- エ こんな地獄の苦しみを続けるなら体が治らなくてもいいと思った<sup>い</sup>と云う。

問8 — 線部⑨「全体の領分ではない」とありますが、では何の領分だと考えられますか。本文中よりひらがな四字で抜き出して答えなさい。

## 問9

——線部⑩「突然の変化に、則道はすぐにウメさんの死を想った。乗っかっていたものがどこかに行ってしまったのかと考えた。そして病院に電話してみたが、ウメさんは昨日から酸素マスクも外し、意識もすっかりしていると告げられた」とはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 則道は、急に体が重くなったのは、ウメさんが亡くなって、ウメさんの死霊がとり憑いたからではないかと考えた。しかし、病院に電話してみると、ウメさんはまだ生きていることが判明し、ウメさん以外の死霊がとり憑いていると分かった。

イ 則道は、急に体が楽になったのは、ウメさんが亡くなって、今までとり憑いていたウメさんの生霊がいなくなったからではないかと考えた。しかし、病院に電話してみると、ウメさんはまだ生きていることが判明し、自分の考えは違っていたと分かった。

ウ 則道は、急に体が重くなったのは、ウメさんが亡くなって、今まで悪霊から自分を守ってくれていたウメさんの生霊がいなくなったからではないかと考えた。しかし、病院に電話してみると、ウメさんはまだ生きていることが判明し、自分の思いこみは違っていたと分かった。

エ 則道は、急に体が楽になったのは、ウメさんが亡くなって、今までとり憑いていたウメさんの死霊が成仏したからではないかと考えた。しかし、病院に電話してみると、ウメさんはとうに亡くなっていて、その意識だけが病院内をさまよっていることが分かった。



三

次の各問いに答えなさい。

問1 次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に直しなさい。

- ① 無駄なケイヒを削減する。
- ② 無観客でのエンソウ会を行う。
- ③ 脱タンソン社会を目指した取り組み。
- ④ 八月としてはイレイの大雨に見舞われる。
- ⑤ メダルを獲得した選手をシユクフクする。

問2 次の①～⑤の三つの言葉の後に共通して入る動詞一語を、それぞれ全てひらがなで答えなさい。

《例》  
先頭を  
電話を  
目標タイムを  
↓【解答】きる

①  
鼻に  
なぞを  
招集を

②  
波に  
脂あぶらが  
口車に

③  
暮らしを  
顔を  
誓ちかいを

④  
尾を  
水道を  
客足が

⑤  
氷が  
値が  
胸を

以下余白



